

財務の概要

平成27年度決算の概要

【資金収支計算書】

* () 内は前年度決算増減額

◎収入の部 1,102,390,698 円

- ・ 学生生徒等納付金収入 142,401,500 円 (増 6,261,611 円)
対予算 減 4,272,500 円
授業料等の納付金である。大学生3名、高校生3名が増えたことにより、授業料収入実習料等が増加し、前年度に対して増収となった。
- ・ 手数料収入 1,795,700 円 (減 435,000 円)
対予算 増 240,700 円
27年度の受験者の減少により入学審査料が減額となった。
- ・ 寄付金収入 163,679,275 円 (減 269,105 円)
対予算 増 3,049,275 円
 - A. 特別寄付金—11,150 千円 (増 2,668 千円)
 - a. 3,000 千円 (宗務院から東洋文化研究所、行学寮へ)、3,200 千円 (同窓会・保護者会)、1,000 千円 (ラオスサポーターズクラブ)、800 千円 (仏教伝道協会)、600 千円 (各種奨学金)、2,550 千円 (耐震事業)
 - B. 一般寄付金—152,529 千円 (減 2,937 千円)
 - b. 130,000 千円 (本山)、18,000 千円 (宗務院)、4,519 千円 (教育振興資金の寄付金) 教育振興基金への寄付金の減額により、前年度より減額となった。
- ・ 補助金収入 141,758,378 円 (減 7,779,617 円)
対予算 増 2,090,378 円
 - A. 国庫補助金—99,671 千円 (減 7,155 千円)
 - a. 前年は25,000千円あった、教育事業資金が本年は18,000千円となったための減額である。
 - B. 県からの補助金—42,087 千円 (減 625 千円)
- ・ 資産運用収入 20,366,834 円 (減 1,024,445 円)
対予算 増 4,100,834 円
NTT、ソフトバンク等の基地使用料等である施設設備使用料が1,126千円増加するも、受取利息配当金が2,150千円減額したことによる。
- ・ 資産売却収入 22,401,000 円 (増 22,401,000 円)
対予算 増 22,401,000 円
国債3億円を解約した際の元金との差額益。
- ・ 事業収入 9,432,025 円 (減 483,986 円)
対予算 減 1,592,975 円
行学寮・女子寮の寮費収入、通信講座登録料、自動販売機手数料等。
行学寮生25年度11名、26年度9名2名減によるもの。

- ・雑収入 44,621,410 円 (増 38,043,587 円)
 対予算 増 2,518,310 円
 25 年度退職者 2 名退職金 2,880 千円、26 年度退職者 5 名退職金 39,413 千円、差額 36,533 千円による。

- ・前受金収入 36,848,000 円 (減 11,147,000 円)
 対予算 減 1,712,000 円
 学生・生徒の翌年度授業料等の納付金であるが、27 年度の学生 8 名の減少により、減額となった。

- ・その他の収入 586,105,783 円 (減 543,234,897 円)
 対予算 増 65,657,283 円
 預かり納付金、研修旅行預り金、その他の支出と両建て勘定である。
 前年度基本金引当資産 1,000,000 千円を計上したが、本年度は 420,000 千円であり、この差額 580,000 千円が主要因である。支出の資産運用支出に反対勘定を計上。

* () 内は前年度決算増減額

◎支出の部 1,102,390,698 円

- ・人件費支出 377,229,097 円 (増 47,306,699 円)
 対予算 減 9,637,503 円
 教職員人件費は、高校教諭、職員の給与引上げにより 4,000 千円増額。さらに、退職金支出 41,000 千円増額により対前年 47,000 千円の増額となった。

- ・教育研究費支出 67,587,092 円 (増 378,394 円)
 対予算 減 10,761,263 円
 前年並み。予算に対しても、全般的に圧縮した。

- ・管理経費支出 51,232,741 円 (減 5,429,592 円)
 対予算 減 6,612,564 円
 25 年度は支払手数料として耐震検査費用 3,360 千円、雑費で浄化槽解体費用 2,300 千円、合計 5,660 千円あり、これが対前年の減額要因である。

- ・借入金等利息支出 68,990 円 (減 145,802 円)
 対予算 減 51,010 円
 女子寮建設費の借入金利息支出。

- ・借入金等返済支出 14,318,578 円 (減 153,175 円)
 対予算 減 581,422 円
 女子寮建設費及び実習棟建設のために山梨中央銀行、身延山久遠寺よりの借入返済金。
- ・施設関係支出 13,400,000 円 (増 7,872,400 円)
 対予算 ± 0 円
 食堂棟建設資金 7,190 千円(17,982 千円の 40%)、設計管理業務費の内の設計業務費 6,210 千円。
- ・設備関係支出 23,982,767 円 (減 2,952,152 円)
 対予算 減 1,287,233 円
 教育研究用機器備品支出 2,136 千円、図書支出 755 千円の減額による。
- ・資産運用支出 21,672,542 円 (減 980,377,485 円)
 対予算 増 21,672,542 円
 25 年度に有価証券(第 3 号基本金 1,000,000 千円)の運用商品の変更をおこなったが、26 年度は本科目経由の動きは 20,000 千円であった。
- ・その他の支出 144,089,841 円 (増 27,191,108 円)
 対予算 増 64,389,841 円
 収入の部のその他収入に計上の預り金・研修旅行費預り金等である。
- ・次年度繰越支払資金 398,458,384 円 (増 392,264,672 円)
 対予算 増 3,412,044 円
 耐震工事支払資金として、基本金 1,000,000 千円のうち 400,000 千円を次年度繰越支払資金に振替えたもの。

【消費収支計算書】

◎消費収入の部 489,462,278 円

消費収入とは本学帰属収入より基本金組入れ額控除後の本学園で消費することができる収入のことである。本学の帰属収入とは収支計算書記載の雑収入までの収入であり、更に寄付金について現物寄付金を含み、本学園に帰属する収入金額のことである。

・帰属収入 551,938,322 円 (増 58,800,077 円)
対予算 増 29,017,222 円

帰属収入は、資産売却差額 22,401 千円、退職金交付金 36,534 千円の増額による。

・基本金組入れ額 62,476,044 円 (増 15,754,291 円)
対予算 増 13,516,044 円

当期に発生した資産への組入れ。

・消費収入合計 489,462,278 円 (増 43,045,759 円)
対予算 増 15,501,178 円

551,938,322 円 - 62,476,044 円 = 489,462,278 円

◎消費支出の部 548,620,496 円

・人件費 374,215,497 円 (増 40,429,099 円)
対予算 減 12,651,103 円

・教育研究経費 112,415,989 円 (増 2,779,485 円)
内 減価償却費 44,819,897 円
対予算 減 28,932,366 円

・管理経費 60,612,519 円 (減 5,312,413 円)
内 減価償却費 9,379,778 円
対予算 減 15,232,786 円

- ・消費支出合計 548,620,496 円 (減 38,999,217 円)
対予算 減 60,626,249 円

消費支出とは人件費、教育研究費、管理経費、借入金等利息、資産処分差額、更に有形固定資産の当年度減価償却費を加算した金額である。

- ・当年度消費支出超過額 59,158,218 円 (減 3,844,657 円)

消費収入 489,462,278 円より、消費支出 548,620,496 円を控除した差額である。この超過額が当該年度の収入不足額、所謂、赤字額である。

【貸借対照表】

(1) 資産の部

教育研究用機器備品 8,572 千円、図書 12,837 千円、建設仮勘定 13,400 千円増額となるも、建物費用 47,376 千円(減価償却 54,200 千円)、特定基本金引当資産の 400,000 千円の減額により、固定資産は 415,678 千円減額した。流動資産は基本金引当資産の現金預金への振替えにより 385,890 千円の増額となった。資産合計額 2,839,572 千円であり、対前年 29,788 千円の減額になった。

(2) 負債の部

長期借入金の返済により固定負債が 13,814 千円の減額、短期借入金・前受金・預かり金等の減額により流動負債が 19,293 千円減額し、負債の部合計では 33,106 千円の減額となった。

(3) 基本金の部

1号基本金が繰り入れにより 42,476 千円増額するも、3号基本金を 400,000 千円流動資産に振替えたことから基本金は 357,524 千円減額となった。

(4) 消費収支差額の部

負債の部、基本金の部、消費収支差額の部合計では 2,839,572 千円となり、資産の部と一致する。